

平成27年度ユネスコスクールレポート

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立条南中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他（ ）

所在地 〒988-0053  
 宮城県気仙沼市田中前4丁目8

E-mail jounan-chu@kesenuma.ed.jp

Website

児童生徒数 男子 107名 女子 97名 合計 190名  
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（共生）

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 平成27年度 ユネスコスクール実施報告

#### 1 本校のESDでめざすもの

##### (1) ESDのねらい

- ・地域の環境を知り、地域を守る意識を高めるとともに、震災時の避難の仕方など、災害発生時に対応できる力を養う。
- ・人、自然、地域社会とのつながりやかかわりを考え、人々と積極的に交流し、共に生きていこうとする態度を身に付ける。

##### (2) ESDで育てたい力（資質・能力及び態度）

- ・自ら課題を発見し探究する力：課題発見能力，計画力，自主性
- ・積極的に人とふれあう力：コミュニケーション能力
- ・分かりやすく表現し伝える力：まとめる力，表現力，発表力

##### (3) 本校ESDの特長

- ・1年「防災」、2年「未来への扉」、3年「共生」をテーマにし、学年別に活動している。
- ・地域の環境を知り、地域を守る意識を高めるためとともに、震災時の避難の仕方や、災害発生時に対応できる力を養う。
- ・職場体験や先輩との交流を通して、働くことや学ぶことへの関心を高め、生き方についてじっくり考える力を養い、自己理解を深める。
- ・地域の人々とのかかわりや、協働的に活動することを通して、地域の一員として自分の役割や責任を果たす力を身に付ける。

#### 2 今年度のESDの概要

##### (1) 実践の概要

未来の気仙沼を支える人材育成を目指し、各学年毎次の課題に取り組んでいる

1年「地域と防災」	2年「未来への扉」	3年「共生」
<ul style="list-style-type: none"><li>・通学路調査</li><li>・防災マニュアル作り</li><li>・救急救命法</li><li>・非常食作り</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・職場体験学習</li><li>・立志式</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・肢体不自由・高齢者体験</li><li>・点字・手話体験</li><li>・市営住宅の住民の方との交流</li></ul>

(2) 本校 ESD の課題の解決に向けて、今年度、特に工夫・改善したこと

- ・特に地域との関わりを重視し、1年生は市の防災対策課、消防署、2年生は市内各事業所、3年生は市営住宅の住民の方々にご協力いただきながら活動を行った。
- ・本校の研究テーマである「学びあい、励まし合える仲間づくり」を意識して学習に取り組みさせるようにした。



〔1年 通学路調査の様子〕



〔2年 職場体験学習の様子〕



〔3年 市営住宅の住民の方との交流（清掃活動）〕

### 3 「ポスト DESD としての GAP (グローバル・アクション・プログラム) の推進に向けての成果と課題

#### (1) ねらい・目的の視点から

##### ①成果

- ・「地域環境を知り災害に備える（環境・防災）→復興に向けて努力する人達と関わる（共生）」という流れになるよう学年ごとにテーマを設定したことで、この地域でどのように生きていったらいいのかという「生き方」について考えさせることができた。
- ・実施に当たって関係諸機関（市役所、消防署、保健所、市内各事業所、市営南郷住宅等）からご指導・ご協力をいただき、たくさんの人とかかわることで、地域の現状や課題、地域の人達の思いなど、多くのことを学習することができた。

##### ②課題

- ・オリエンテーションの際に、学年の計画だけでなく3年間の計画を示すことで、学習への見通しをもたせ、ねらいを十分に理解させるようにする。

#### (2) カリキュラム・マネジメント（指導計画・内容・方法、連携・交流等）の視点から

##### ①成果

- ・昨年度から講座制から学年単位で課題を設定しその都度内容を検討しながら進めたことで、計画の変更や見直しが柔軟に行えた。また、生徒の興味・関心や学習進度に合うように変更したことで、生徒にとってより有意義な学習にすることができた。
- ・各学年毎にテーマを設定し、最終のまとめの形（ゴール）を明確にして進めたことでそこに到達するまでに必要な諸活動の内容を具体的に捉えながら実施できた。

##### ②課題

- ・各学年毎の計画と活動であるために、他学年の様子が分かりづらくなってしまった。そのため、変更点や活動時の留意点などの累積方法を工夫し、次年度の計画の見直しや活動に役立てていくようにする。

#### (3) アクティブ・ラーニング（主体的・探求的・協働的な学習）の視点から

##### ①成果

- ・3年生が市営南郷住宅の住民の方々と交流する際、事前にアンケート調査を行い、住民の方がどんなことをしてほしいかについて把握し、活動を計画した。要望に基づき、一緒に料理、グランドゴルフ、棟内清掃、昔の遊びを行った。訪問の回数が増すにつれ親睦が深まった。ニーズに合わせ、自分たちができることで交流活動を行うことで主体的な動きが

見られ、有意義な学習となった。

②課題

- ・全学年においてさらに主体的な学習になるような計画を立てていく必要がある。

(4) 評価（育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容等）の視点から

①成果

- ・地域の方々との関わりをとおして、自ら学ぼうとする意識の高まりやコミュニケーション能力の向上が見られた。また、仲間と協力して活動したり発表を聞き合ったりしたことで、互いに協力し合い認め合う気持ちが高まった。
- ・講話や体験、調査などを適切にまとめ、発表する活動を通して、表現力や発表力が高まった。

②課題

- ・もっと生徒が主体的に課題解決に向かっていく必要な思考力や判断力を養えられるような内容や計画となるよう、見直しをしていく必要がある。

4 今後のESDの方向性 ～21世紀型能力の育成等～

(1) ねらい・目的の視点から

更に「地域を知り、地域社会とのかかわりを通して学習を深めるプログラム」となるよう、地域題材や地域人材の活用を図っていく。

(2) カリキュラム・マネジメント（指導計画・内容・方法、連携・交流等）の視点から

今年度の反省や変更点などを次年度計画に生かし、更に充実した計画となるよう練り直していく必要がある。また、もっと生徒の主体的な学習を進め、生徒同士や地域社会との協同を進めるための手立てを工夫していきたいと考える。

(3) アクティブ・ラーニング（主体的・探求的・協働的な学習）の視点から

学習をもとに生徒自らが考え実践できる学習の場の設定を積極的に行っていきたい。

(4) 評価（育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容等）の視点から

3年間の学習を通して、「未来の気仙沼を支える意識や実践力を身に付けさせ、地域復興の一助となる人材を育成する」というねらいに迫るために、知識や技術だけでなく、自分で考えて計画・行動できる実践力を養う場を設定していく。また、もっと生徒が自分の変容や成長を実感できるような評価方法を工夫していく。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ )